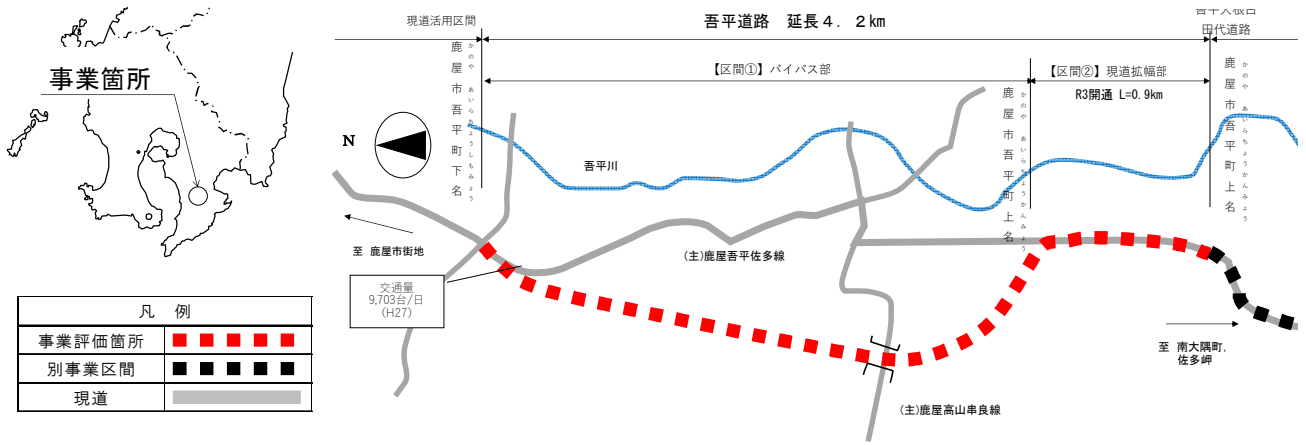


再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：道路局 環境安全・防災課
担当課長名：伊藤 高

| | | | | | |
|---|---|---|---|--------------------|-------|
| 事業名 | 地域高規格道路 <small>おおすみじゅうかんどう</small> 大隅縦貫道 I 期 主要地方道 <small>かのやあいらきたあいら</small> 鹿屋吾平佐多線 吾平道路 | 事業区分 | 地方道 | 事業主体 | 鹿児島県 |
| 起終点 | 自：鹿児島県鹿屋市吾平町下名 至：鹿児島県鹿屋市吾平町上名 | 延長 | 4.2km | | |
| 事業概要 | | | | | |
| 吾平道路は、鹿屋市から錦江町を経由し、南大隅町に至る約50kmの地域高規格道路「大隅縦貫道」の一部を構成する道路であり、平成26年12月に供用された串良鹿屋道路などと一体となって広域交通ネットワークを形成し、地域の産業・経済の活性化に大きく寄与する道路である。 | | | | | |
| H27年度事業化 | 都市計画決定 無し | H29年度用地着手 | H30年度工事着手 | | |
| 全体事業費 | 約80億円 | 事業進捗率 | 約76% | 供用済延長 | 0.9km |
| 計画交通量 | 3,600～10,000台/日 | | | | |
| 費用対効果分析結果 | B/C (事業全体) 1.08 (残事業) 3.5 | 総費用 (残事業)/(事業全体) 24/78億円 事業費：23/78億円 維持管理費：0.78/0.78億円 | 総便益 (残事業)/(事業全体) 85/85億円 走行時間短縮便益：64/64億円 走行経費減少便益：16/16億円 交通事故減少便益：3.9/3.9億円 | 基準年 令和5年 | |
| 感度分析の結果 | | | | | |
| (事業全体) 交通量：B/C=1.0～1.1 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=3.3～3.7 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.1～1.1 (事業費±10%) 事業費：B/C=3.2～3.9 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.0～1.1 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=3.4～3.5 (事業期間±20%) | | | | | |
| 事業の効果等 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 広域交通ネットワークの構築（東九州自動車道と一体となり、鹿児島空港までのアクセス向上） ・ 物流効率化の支援（農畜産物の安定的な輸送支援） ・ 災害への備え（冠水箇所を回避し、第二次緊急輸送道路の機能を強化） ・ 生活環境の改善（第二次救急医療施設へのアクセス向上による救命率の向上） | | | | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 | | | | | |
| 鹿屋市など大隅地域4市5町で構成される大隅総合開発期成会等により大隅縦貫道の早期整備を要望されている。 | | | | | |
| 事業評価監視委員会の意見 | | | | | |
| 鹿児島県事業評価監視委員会において、審議の結果「事業継続」が妥当であると認められた。 | | | | | |
| 事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 東九州自動車道（鹿屋串良JCT～志布志IC）が令和3年7月17日に供用開始 ・ 吾平大根占田代道路が令和3年度に新規事業化 ・ 現道拡幅部の0.9kmが令和3年度に開通 | | | | | |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等 | | | | | |
| 用地進捗率99%、事業進捗率約76% | | | | | |
| 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 | | | | | |
| 地元や関係機関との協力体制のもと、早期供用に向け事業進捗を図る。 | | | | | |
| 施設の構造や工法の変更等 | | | | | |
| 発生土については、自工区及び他事業への流用を図るなど、コスト縮減を図っている。 | | | | | |
| 対応方針 | 事業継続 | | | | |
| 対応方針決定の理由 | 事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。 | | | | |

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。